

## 社会の変化に対応できる子が育つ社会科学習 ー 社会とのつながりに気付く授業を通して ー

衣 斐 優

関ヶ原町立関ヶ原小学校

The learning of social studies which develops children who can  
adapt to social change:

Through classes that notice connections with society

Yuu EBI

キーワード：主体的 社会とのつながりに気付く

### I. 実践研究の背景と目的

#### 1. はじめに

「生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。<sup>1)</sup>」「学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている<sup>1)</sup>」

上記は『小学校学習指導要領解説社会編（平成29年6月） 第1章 総説（1）改訂の経緯』に記載されているものである。これらの内容を受け、私は、学びの中から得た自らの力を生かして、自分自身を取り巻く社会とのつながりに気づき、日々変化する社会に主体的に関わっていく子を育てていきたいと願っている。そのためには、私たち教師が、これからの社会を生き抜くために必要な力を学び、授業の中に位置付けていく必要がある。現在の私は、小学校教諭であるが、自分の専門の社会科の学習を核として、「主体的に課題を発見し、解決に導く力」「創造性」「コミュニケーション能力」「多様性を受容する力」<sup>2)</sup>などを高め、それらを基に、社会とのつながりに気付く子を育てていきたいと考えている。

#### 2. 主題設定の理由

##### （1）小学校学習指導要領解説 社会編

小学校社会科の目標を端的に表すと、「公民的資質の基礎を養う」ことである。学習指導要領解説社会編には、「公民的資質」について、以下のように記載されている。

「平和で民社的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重しあうこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすることなどの態度や能力であると考えられる。<sup>3)</sup>」

上記の1点目、2点目から、自分と社会とのつながりに気づき、それを自分事としてとらえながら主体的に関わっていくこと、3点目から日々変化する社会の諸問題を解決するために工夫や努力する人々の営みの意味を考える学習活動の重要性を考えることができる。社会科で身に付けるべき、態度や能力は、これからの時代を生きる人々が培うものともつながっている。

##### （2）願う子供の姿

これまでの実践を基に、私が社会科の学習で願っている子供の姿は、以下の通りである。

- ・ 社会的事象を自分事としてとらえ、その特色や相互の関連、意味などを主体的に追究できる子

- ・生活経験や既習事項を基に、課題に対する予想をもち、各種の基礎的資料を効果的に活用し、多面的・多角的に考えることができる子
  - ・地理的環境や産業と国民生活との関連、歴史的背景などを基に考えたり、仲間と話し合ったりして社会生活についての理解を深めることができる子
  - ・社会とのつながりに気付き、これまでの自分の行為や考えを振り返ったり、社会への関わり方を選択・判断したりできる子
- これらのことから、本実践研究の主題を設定した。

## Ⅱ. 実践研究の方法

### 1. 実践研究の仮説

研究主題に迫るために、これまでの実践の上に立ち、次のような仮説を立てた。

- (1) 子供たちの主体的な学びを高める学習活動を位置付ける。
  - (2) 既習事項や生活経験とのつながりを明確にした単元構成を行い、社会とのつながりに気付く指導・援助を行う。
  - (3) 社会とのつながりに気付くことができる学習活動を位置付ける。
- 上記の3点を行うことで、社会とのつながりに気付く子を育てることができる。

### 2. 実践研究の計画

実践研究を進めるにあたり、図1のように計画を立てた。特に、成果と課題を受けて、改善を行うことを繰り返し、実践することを大切にして実践した。

### 3. 実践評価方法

実践評価方法は、下記の通りである。

- ・子供のノート及び学習プリントの記述内容
  - ・子供の発言や授業記録
- を分析、評価することによって行う。

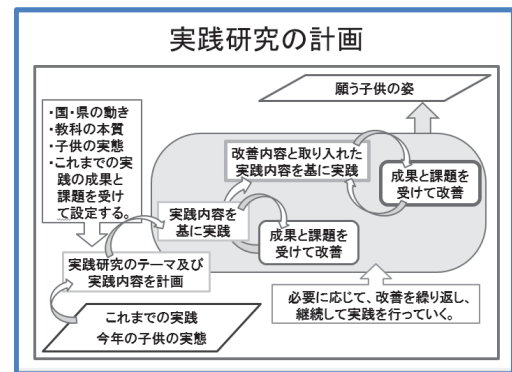


図1 実践研究の計画

## Ⅲ. 実践内容

### 1. 子供たちの主体的な学びを高める学習活動の位置付け

これまでの実践では、単元の導入時に、単元を象徴する写真資料や疑問をもちやすい統計資料を提示し、そこから感じた疑問やもっと調べたいことを書き込んできた。自分自身や仲間の疑問を解決していくため、「次は火事の原因について調べるんだね。」「火の燃え広がるスピードがすごく速いのが分かったから、見学に行ったときに、現場に向かうまでに気を付けることを質問したいな。」などと次の学習への関心を高め、主体的に学ぶ姿が多く見られた。そこで、図2にあるように、単元導入時に写真・イラスト資料と年表などを提示し、子供たちがそこでもった疑問やもっと調べたいことを基に単元の学習計画を子供と一緒につくっていった。

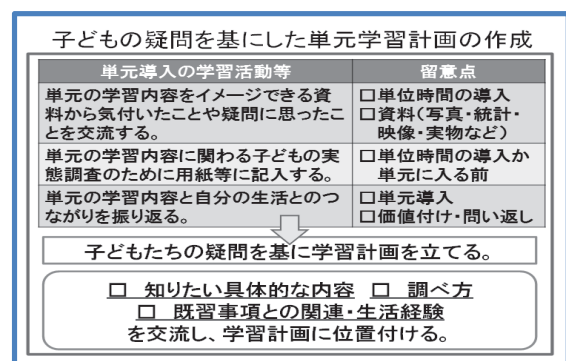


図2 子供の疑問を基にした学習計画の作成の仕方と留意点

[実践例：6年 明治の国づくりを進めた人々]

この単元では、約260年間続いた江戸幕府が終わり、新しい国づくりをするための基礎を創り上げた人々や政策などについて学習する。そこで、図3のような学習プリントを作成し、江戸末期と明治初期の様子を比較して読み取ることができるようにした。さらに、当時の時代の流れをとらえることができるように年表を読み取る活動も位置付けた。

このことから、「鎖国をしていたはずなのに、外国の文化が取り入れられているのはなぜか。」「誰が政治の中心になって新しい国づくりを進めたのだろう。」「世の中をこんなにを変えるにはどんなことを行っていったのだろう。」「約20年で一気に変わっていったけど、それに反発する人はいなかったのか。」などと単元をとらえるのに大切な疑問を多くの子がもつことができた。また、単元導入で年表を基に時代の流れを確認していったことで、これ以降の学習で歴史的な事象の順序を正しくとらえて学習したり、年表を振り返りながら考えづくりをしたりする姿が増えてきた。

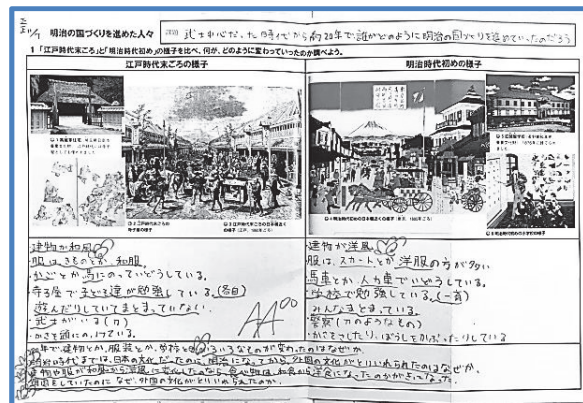


図3 A児の学習プリント

〔実践例：5年 米づくりのさかんな地域〕

この単元では、稲作農家が抱える今日的な課題の解決に向けて、工夫や努力をしていることや食料確保のためにさまざまな人々が関わっていることなどについて学習する。そこで、単元導入に、①米（稲作）と自分の生活とのつながりを振り返る活動と、②教科書に掲載されている庄内平野と身近で米づくりがさかんな海津市の様子を比較し（図4）、そこから分かったことや疑問に思ったことを交流する活動の2つを位置付けた。



図4 単元導入の資料

①の活動では、農作業の様子や各地で生産されている米の銘柄を写真で提示していった。そうすることで、「登校中に見たことがあるよ。これより大きな機械を使って作業をしていたよ。」「そういえばおじいちゃんが水の管理は大変だって言ってた。」「スーパーで見たことあるよ。うちはハツシモを食べてるよ。」などと、生活の中で見聞きしたり、体験したことを口々に話していった。また、仲間の話を聞く中で、「ぼくも同じで〜。」「私は違って〜。」などと比べながら話題を広げたり深めたりする姿が多く見られた。

その後の②の活動では、図4にあるように、米づくりのさかんな2つの地域を比較して追究することで、「山や川は米づくりにどんな関係があるのかを調べたい。」「こんなに広い面積で作業をするのは大変だと思う。どんな工夫をしているのか調べたい。」「環境がいいから水田が多いのか。それとも、米づくりによい環境を整えていったのかを調べたい。」など、米づくりに必要な条件や広い土地で作業する人々の苦労や工夫などについて考えながらノートに書き込むことができた。

学習内容についての関心を高めた上で、疑問や調べたいことを基に単元の学習計画を立てていったことで、「〇〇さんの疑問は、資料集に載っているよ。」「先生、図書室の本で調べてきてもいい。」「今日帰ったら、おじいちゃんに聞いてみる。」などと、主体的に学ぼうとしたり、調べ考えたことを意欲的に交流したりする姿を高めることができた。また、教師側としては、これまでの学習内容の定着度を見届けることができ、その後の指導に生かすことができた。

## 2. 既習事項や生活経験とのつながりを明確にした単元構成、社会とのつながりに気付く指導・援助

社会科の学習内容は既習事項や生活経験と密接に関わっており、それらを基に学習を深めていくが、これまでの実践を振り返ると、子供たち自身の力で既習事項や生活経験とのつながりに気付くことは難しい状況だった。そこで、学習内容のつながりを明確にした系統表を図5のように作成した。

また、学習したこととその後のつながりを意識できる指導を行うことで、既習事項をつなげ、主体的に社会的

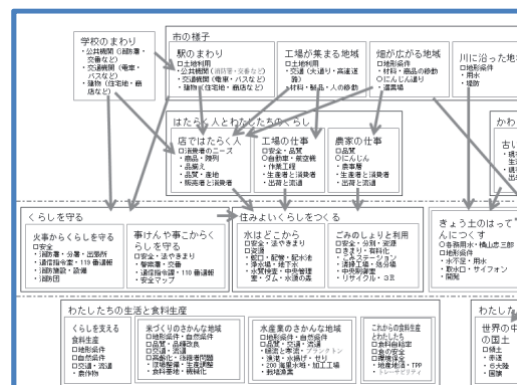


図5 学習内容のつながりを明確にした系統表

事象の意味を考える子をさらに育てることができるのではないかと考えた。

[実践例：6年 3人の武将と天下統一]

第5時では、徳川家康がどのようにして天下を統一していったのかを学習した。この学習で学びを深めていくために、下記の既習事項について子供たちの意識が高まるように授業を行った。

<p>[武士の世の中へ]</p> <p>源頼朝は武士中心の政治を行うため、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貴族が行っていた政治の中心から離れた場所</li> <li>・ 自分の味方が多い場所</li> </ul> <p>に幕府を開いた。</p> <p>鎌倉幕府は武士中心の政治を行うために、これまでとは異なる政治のしくみをつくった。</p>	
<p>[3人の武将と天下統一]</p> <p>織田信長は天下統一の拠点として安土に城を築き、城下町を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 城下町に家来を住ませた。</li> <li>・ 商人を集め、道路の整備をした。</li> <li>・ 水路を利用し、様々なものを運搬した。</li> </ul>	
<p>実際の授業は以下のものであった。</p> <p>[3人の武将と天下統一 第5時]</p>	
B児	(資料を基に全体でまとめる。)
T	家康は頼朝ににてる。
T	どういう点でにているの？
C児	幕府を開いたのもそうだけど、それまで秀吉が政治を行っていた場所から遠い江戸で政治を行ったところもにている。
T	さすがだね。Cさんのように前の学習とつなげて考えると他にもにているところはないかな。
D児	家康は秀吉によって江戸に引っ越しさせられて、一から町づくりをしていったから、江戸の近くには家康の味方となる人が多かったと思います。
E児	天下統一の拠点となる町づくりをするのは織田信長ともにている。
T	具体的に教えて。
F児	城下町に家来を住ませたり、水路を利用してものを運んだりして町を発展させたところですよ。
～中略～	
T	みんなすごいね。前もそうだったけど、前の学習とつなげて考えることでより深く学ぶことができるんだね。これからもこういう学びを続けていこうね。

その後の学習をイメージして大切な言葉をおさえながら授業を組み立てること、前時を想起しやすいような資料を提示したり、発問をしたりすることで、社会的事象はその時代のことだけでなく、過去からずっとつながっていることをとらえる子供が増えてきた。

[実践例：6年 明治の国づくりを進めた人々]

第1時では、江戸末期から明治初期にかけて生活の様子が一変していることに気付き、単元の学習計画をたてた。この学習で学びを深めていくために、下記の既習事項について子供たちの意識が高まるように授業を行った。

<p>[江戸幕府と政治の安定]</p> <p>武士をはじめ、百姓や町人など様々な身分に分けられていた。また、武士は、きまりをつくり百姓や町人などを支配していた。</p> <p>幕府は鎖国により、外国との貿易や交流を行う場所を制限したため、貿易で得られる利益や海外からの情報をほぼ独占していた。</p>	
<p>[町人の文化と新しい学問]</p> <p>新しい学問（蘭学・国学）が広まることで、今の政治や社会に対して疑問や不満などをもつものが現れてきた。</p>	
<p>実際の授業で子供から出された調べたいことや疑問は以下の通りである。</p> <p>[明治の国づくりを進めた人々 第1時]</p>	



## 【単元で調べたいことや現在の疑問】

- ・江戸時代は鎖国をしていたはずなのにどうして西洋風ของものがこんなに広がったのか。
- ・明治に入り、外国の文化を積極的に取り入れようとしたのはなぜか。
- ・誰が政治の中心となっていたのか。
- ・武士の姿が見あたらない。武士はどうなってしまったのか。
- ・外国のどんな文化が、どのように広まっていったのか。
- ・20年間で一気に変えていったことで他の人たちからの反発はなかったのか。
- ・武器を持つ武士がいなくなったことから戦争はなくなったのか。

系統表を基に授業を仕組んでいったことで、政策や社会の様子、文化などについての理解を深めることや既習事項を基に社会の変化をとらえることができる子を増やすことができた。

## [実践例：5年 あたたかい土地のくらし]

第4時では、11月から3月までの間、東京市場で沖縄産の小菊が多く取引される理由を学習した。この学習で学びを深めていくために、下記の既習事項について子供たちの意識が高まるように授業を行った。

## [高い土地のくらし]

- ・川上村や南牧村では、「夏の涼しい気候」を生かしてレタス作りをしている。
- ・よりよいレタスを消費者に届けるために、「朝早く収穫したり、輸送方法を工夫したり」している。

実際の授業は以下のものであった。

## [あたたかい土地のくらし 第4時]

	(導入資料から課題を設定する。)
	11月から3月まで沖縄産の小菊が多く取引されているのはなぜだろう。
T	予想を教えて。
G児	沖縄は年中あたたかいから作れるんだと思います。
H児	特別な方法で作っているからだと思います。
I児	川上村のレタスと同じで沖縄県のあたたかい気候が関係しているんだと思います。
T	さすがだね。Iさんは前の学習とつなげて考えているね。本当にそうかみんなで明らかにしていこう。さて、どんな資料があればいいかな。
J児	沖縄県の気候が分かるグラフがあれば分かります。
K児	どんな風に小菊を作っているか分かる資料があるといいです。
L児	沖縄県からどうやって輸送しているのかが知りたいです。
T	なるほど。これも前の学習(高い土地のくらし)を生かしてほしい資料を考えられているね。素晴らしいね。気候については、前に学習した部分、教科書を見てね。他の2つは資料を用意したからそこから考えましょう。

予想の段階で、G児、H児、I児は既習事項(高い土地のくらしを生かしてレタス作りをしていること)を生かして予想を考えることができた。社会で営まれていることは、他地域でも形を変えて存在することを考えられたことは、社会とのつながりに気付いた姿の一つを言える。また、J児、K児、L児のように資料選択の場面でも既習事項を基にして、課題解決に必要な事実を得るための資料を考えることもできた。担任が単元を通して深めたい内容と関わりのある既習事項を明確にすることで、子供の発言を聞き取って価値付けたり、広げたり深めたりする発問をしたりすることができた。それにより、学習内容が一つ一つ切り離されているものではなく、つながっていることに気付く子供が増えた。

### 3. 社会とのつながりに気付くことができる学習活動の位置付け

社会科の学習は、身近な人・もの・事柄を学習対象としている。しかし、教科書や資料などを基に学習するだけでは、社会とのつながりに気付いていくことは難しい。

そこで、社会とのつながりに子供たち自らが気付いていくことができるように、次の2つの学習活動を意図的に位置付けた。

（１）見学、作業的・体験的な活動の位置付け

現在は、知りたいときに知りたい内容を本やインターネットなどで調べることができる非常に便利な時代である。そのため、授業をしていても、多様な知識をもっている子が多い。

しかし、事実を表面的にしかとらえていなかったり、正確に理解していなかったりする子も多くいることが分かった。中でも、人々の苦労や努力、自分たちの生活とのつながりを理解することは、なかなか難しいことが子供たちの姿から明らかになった。

そこで、社会的な見方や考え方を高めるのに必要な知識を身に付けたり、人々の苦労や努力に気付いたりする場に見学や体験活動を位置付けた。

〔実践例：４年　ごみのしりと利用〕

単元中盤で自分たちのごみを収集する人の仕事内容を理解し、そこでの工夫や努力に気付くことができるように、第３時にごみ袋を持つ体験と私たちのごみを収集する様子を見学した。関ヶ原町民が年間に出す可燃ごみは約 965 トンである。しかし、この数値だけを資料をして示しても、自分たちが出すごみの量の多さやごみを収集する人の苦労や努力に気付くのは難しいと考えた。実際の授業は以下のようであった。






T	さあ、これがパッカー車だよ。どうやってごみを入れるか分かるかな。	
M児	後ろのところにごみを入れます。	
T	すごい。よく知ってるね。	
N児	見たことがあるもん。	
O児	私も、学校が休みの日に家の前を通っていくのを見たよ。	
T	今日は、みんなにも出されたごみをパッカー車に入れてもらいます。	
	～中略～	
	（ごみをパッカー車に入れる。）	
P児	うわっ、思ったより重い。上まで上がらない。	
Q児	あっ、（袋が）破れた。なんか汁が垂れてきたよ。	
R児	入った。ごみがたまったらどうするの。	
G T	いい質問だね。よく見ていてね。（ボタンを押し、ごみを中に詰める。）こうやって機械を動かしてごみを奥へ詰めていくんだよ。	
	～中略～	
G T	みんな上手にごみを入れたね。では、おじさんたちが入れる様子を見ていてね。	
G T	（ごみをパッカー車に入れる。何かに気付いて、ごみを入れるのを止め、ごみ袋を開く。）やっぱり。みんな見て。	
S	缶だ。	
S	燃えるごみの袋に入ってる。いけないんだ。缶はちゃんと缶で集めないと。	
G T	みんなは分別することを知っているんだね。おじさんたちはただごみを入れるだけじゃなくて、入れる時に重さを確認したり、音を聞いたりして変な物が入っていないか確認しながら入れているんだよ。そうしないと、おじさんたちがけがをしたり、パッカー車が壊れたりしてみんなに迷惑がかかってしまうからね。	
T	今の話を聞いて、どう思いますか。	
S児	僕は入れるのに精いっぱいだったけど、そんなことまで考えてるなんてすごい。	
T児	私はちゃんとごみを捨ててるけど、これからも気を付けてごみを捨てたいです。お母さんはちゃんと捨ててると思うけど、家族にも教えていきたいです。	
	～後略～	
	※G T（ゲストティーチャー）	

図 6 子供がごみを入れる様子

図 7 職員がごみを入れる様子

上記のようにごみ袋を持つ体験をしたことで、ごみの量を適切にとらえることができた。また、ごみを収集するMさんが、ごみステーションのごみを片手でパッカー車に入れる様子を見て、「あんなに重いごみを軽々と投げ入れているMさんはすごいな。」「一日に何袋も入れるんだ。大変だな。」などと自分の体験を基に事実をとらえることができた。普段、何気なく捨てているごみの分別方法を意識したり、家族に働きかけたりする姿も見られ、自分の生活と社会生活をつないで考えられる子を増やすことができた。

社会科の学習では4観点で評価しており、單元ごとに身に付けさせたい知識がある。知識を身に付ける授業では、子供たちが受け身になってしまうことが多く、知識がなかなか身に付かないという課題があった。

そこで、資料を基に仲間と交流しながら知識を身に付ける作業的な活動を位置付けた。

[実践例：米づくりのさかんな地域]

第4時に稲作農家の1年間の作業について学習した。単位時間の中で、教師が一方向的に説明するのではなく、作業の写真からどんな仕事をしているのか、どの順番で行うのかを仲間と交流しながら考えたり、並び替えたりする活動を位置付けた。

図8のように作業的な活動を行っている最中は、「畑と同じで耕したり、肥料を入れたりしているんじゃないかな。」「始めから田んぼに水が引いていることはないから、順番が違うと思うよ。」「確か稲が大きくなった頃に雑草が生えていたから、この間に入れるといいよ。」「去年おじいちゃんがやってたのを見たことがあるから、この順番でいいと思うよ。」などを資料の細部まで確認したり、生活経験を基に考えたりして主体的に交流することができた。学習していることが自分達の生活とつながっていることを実感しながら活動する子も見られた。また、資料を基に自分達で考えていったことで、稲作の作業工程への関心が高まり、これまで以上に意欲的に覚えようとする姿も見られた。

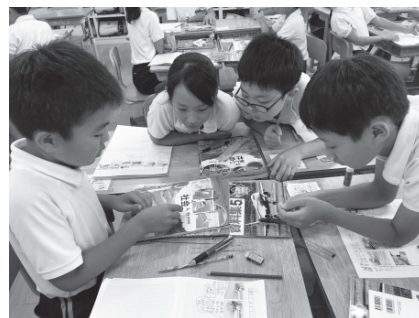


図8 写真資料を並び替えながら交流する様子

## (2) 単元をまとめる場の設定

これまでの実践により、「単元をまとめる場」を位置付け、単元のキーワードを基に意図的に子供たちが社会に働きかけることを考えていくことで社会とのつながりに気付く子を育てることができると考え、実践を行ってきた。昨年度までの実践の基、図9のように、単元をまとめて表現できるようにした。

[実践例：5年 あたたかい土地の暮らし]

単元末に「気候を生かす」をキーワードにし、単元で身に付けた内容を一般化させる場を位置付けた。

S児は、図10にもあるように、学習した単元だけでなく、「寒い土地の暮らし」についても資料を活用し、キーワードを基にまとめることができた。学習の中で獲得した見方や考え方を基に全体では学習していない「寒い土地の暮らし」について多面的にとらえる力を高めることができた。このように学習内容を一般化して表現できたことで、他の学習の場面でも社会とのつながりについて意識して学ぶ子供の姿が見られた。

## IV. 実践の成果と課題

下記は、本実践の対象児童である昨年度の6年生T児、本年度5年生U児の学習のまとめである。

私は今とのつながりでこれまでの全部の時代の出来事や行ってきたのは全て平和を願っていた人たちが行ってきたのではないかと思います。例えば聖武天皇だったら、世の中の不安や苦しみを仏教の力で取りのぞき、国を守りたいというように、平和な世の中を願っていたんだと思います。今も、国民を大切に、戦争は行わないと決めているから、そこがつながっていると思います。過去の戦争では、たくさんの人が犠牲になり、それをたくさんの人が悲しんできたから、もう戦争はやってはいけないと思います。(T児)

社会とのつながりに気付く「単元をまとめる場」の位置付け

<p>単元を想起し、単元のキーワードを想起する。</p> <p>単元を貫く課題を基に本時の課題を設定する。</p>	
まとめ方	留意点
パンフレット	□単元のキーワードを必ず入れてまとめる。
ポスター	□単元で使った資料を位置付けたり、自分でアンケートやインタビューなど調査したりしたことをもとにまとめる。
新聞	□歴史学習においては、具体的な事実を基にまとめることが大前提だが、歴史上の人物や歴史事象に対して共感的にとらえられるようにする。
標語	
企画書	
時代背景・過去や現在とのつながり	

※子どもの実態を基に、まとめ方の種類を限定することがある。  
※自分が直接できることを考え、まとめることができるようにする。

図9 単元をまとめる場の位置付け

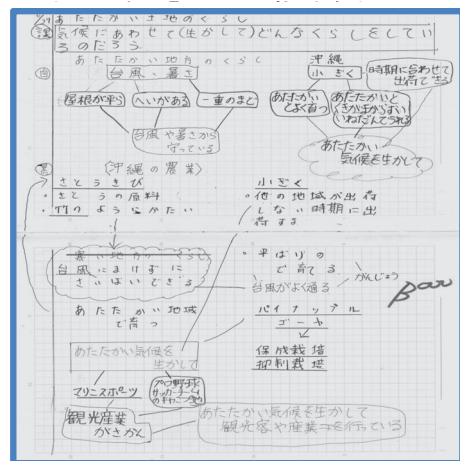


図10 単元をまとめる場のS児のノート



私はこの学習をして、最初、米づくりはそんなに大変じゃないのかなと思っていました。しかし、いろいろなお米を作るために、土をかき混ぜたり、水の管理をしたりしていることを学び、米づくりの大変さが分かりました。他にも、米農家が抱える後継者や消費量の問題も学びました。私だけではなんともできないので、自分たちがまとめたことを、インターネットなどを使って、みんなに知ってもらえるようにしていきたいと思いました。

大変なことがあるけれど、米農家さんは米の管理や出荷などを完璧にやっているのでもとてもすごいなと感じました。(U児)

2人とも学習内容を正しく理解するだけでなく、自分の生活とのつながりを感じながらまとめることができた。学んだことを知識としてだけでなく、人々の思いや願いと関連づけて考えられているからこそ、「もう戦争はやってはいけない。」「みんなに知ってもらえるようにしたい。」という言葉にまとめられたのだと思う。これは、社会的事象に対しての関心を高め、主体的に追究してきたことと、学習内容を自分事としてとらえられたことによって表れた結果だと考える。

また、5年「自動車をつくる工業」と4年「和紙をつくるまち 美濃市」の単元における児童の学習ノートの記述内容から表1のような結果が得られた。4、5年共に8割近い子が上記の児童の感想のように社会とのつながりに気付くことができたことは本実践の大きな成果となった。

表1 児童のノートの記述内容からの評価(平成29年度)

5年生「自動車をつくる工業」4年生「和紙をつくるまち美濃市」でのノートの記述からの評価	
項目	達成人数
生活経験や自ら調べ学習をして得た事実を基に考え、社会とのつながりに気付くことができた子	5年生 4人
	4年生 6人
既習事項と関連づけて考え、社会とのつながりに気付くことができた子	5年生 30人
	4年生 19人
既習事項を基に考えたが、社会とのつながりには気付くことができなかった子	5年生 5人
	4年生 3人

※平成29年度の担当児童数5年生35人、4年生22人。  
※1つ目と2つ目の項目は重複する児童がいる。

本実践研究を通して明らかになった成果と課題は下記の通りである。

- 単元導入時に単元を象徴する写真資料や統計資料などを提示し、子供たちの疑問を引き出し、単元の学習に位置付けたことで、既習事項や生活経験とのつながりに気付いて関連づけて考えたり、進んで調べたことを仲間同士で交流したりと、子供たちが主体的に学ぶ姿を高めることができた。また、既習事項の定着状況についても見届けることができ、その後の指導に生かすことができた。
- 学習内容のつながりを明確にして授業を進めていったことで、既習事項や生活経験を基に社会とのつながりに気付く子を育てることができた。また、このことにより、子供の姿を的確につかみ、価値付けることができた。
- 学びを深めることにつながる見学や作業的・体験的活動を位置付けたことで、社会的事象を正しく捉えたり、関心を高めたり、主体的に学んだりする子供の姿を増やすことができた。また、直接体験することで、自分の生活とのつながりを実感することができた。
- 子供たちなりに社会とのつながりに気付くことができたが、飛躍しすぎた考えや主観的な考えのものもいくつか見られた。社会への関心を高めることは必要だが、実生活につながる考えをどうもたせていくかについては吟味が必要である。課題を受けて、今後下記の3点を改善していく。
  - ・社会的事象を正しく、そして多角的に捉えることができるような指導・援助を継続して行い、それらを基に社会とのつながりや、社会へ働きかけられることを考える活動を位置付ける。
  - ・考えを書くだけで終わらず、書いたことを仲間同士で練り合ったり、共に考えたりする活動を位置付ける。
  - ・教師が願う子供の姿を具体的に描き、授業の中で、価値付けたり方向付けたりして子供の姿を高めていく。

## V. おわりに

子供たちの見方や考え方の高まりに驚かされた。私では考えつかないことを話したり、こちらが思っている以上に真剣に現状や未来について考えたりしていた。日々大きく変化している社会だが、きっとこの子たちはよりよい社会をつくっていてくれると思う。

これからも、子供たちと共に学び続ける教師でありたいと強く願っている。

## 注・文献

- 1) 文部科学省(2017): 小学校学習指導要領解説 社会編 第1章 総説(1) 改訂の経緯 P1
- 2) 教育再生実行会議(2015): これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について(第七次提言) P2~3
- 3) 文部科学省(2008): 学習指導要領解説 社会編 第2章 社会科の目標及び内容 第1節 社会科の目標